

1 派遣団員としての抱負

私は、派遣団員に選ばれたとき、初めは期待と不安がありました。しかし、自分なりに戦争や原爆について調べてみたところ、戦争がとても恐ろしいものだとわかり、もっと戦争や原爆についての知識を広げようと思うようになりました。そして、広島平和記念式典派遣団員として平和や戦争、原爆の恐ろしさを学ぶ機会にしていきたいと思い参加することに決めました。

現在の日本で生きる私たちは戦争について考えることがほとんどありません。記念式典への参列や被爆体験者の方の講話など、私自身の知識を広げ戦争の持つ残酷さや悲惨さを知り、栃木市の平和大使として平和の心を伝えていきたいとの思いを胸に広島へ向かいました。

2 平和記念資料館について

8月5日に広島平和記念資料館を見学しました。広島平和記念資料館には、被爆者の遺品、被爆の惨状を示す写真や資料が展示されています。また、広島の被爆前後の様子や核の時代の状況の紹介もしてあります。

広島平和記念資料館は、大きく東館1階、東館2～3階、本館の3つに分かれています。東館1階では主に被爆前後の広島、原爆の開発から投下までについて模型や映像・パネルで紹介しています。

東館2～3階では核の時代の現状や、広島市の平和への取り組みについて模型や写真、パネルなどで紹介しています。本館では、被爆者の遺品や被爆資料を展示して、1945年（昭和20年）8月6日、原子爆弾投下で広島に何が起こったかを伝えています。本館では、原子爆弾がどれほど悲惨で残酷なものかを強く感じ、学ぶことができます。

また、東館地下1階では市民が描いた原爆の絵を見たり、被爆講話を聞いたりできます。

3 心に残ったこと

私は、資料館に入ってすぐの展示を見て、言葉を失いました。また、世界中から訪れていた人の多さに、広島原爆の悲惨さを実感させられた気がしました。

まず、資料館に入って一番に目に入ったものは、原爆ドームをはじめとする爆心地付近の模型や実際の写真です。たくさんの民家が立ち並ぶ市街地が、跡形もなく壊され焼き尽くされ何もなく、まるで廃墟のようでした。今の私たちが住んでいる場所からでは想像が付きません。私は、この時被害の大きさを改めて知りました。

それから、奥に進むと実際に使用された原子爆弾と同じ大きさの「リトルボーイ」の模型がありました。見ただけでも迫力を感じ、これが爆発したと考えると鳥肌がたちました。

さらに進み、本館に入ると被爆の悲惨さを語るたくさんの遺品や実際の物がありました。

その中でも、一番印象強く残っているものは「黒い雨」です。これは、爆心地から3.7キロメートルの所に位置し、爆発後広島市域ほぼ全域と周辺部で降った放射性物質を含んだ雨です。白い壁にくっきりと跡が残っていて原子爆弾の恐ろしさが伝わってきます。今では考えられないことで、もし降ったらと考えると怖くなりました。

最後に、館内の出口にあった花の写真です。すごく辛い状況の中、生命力の強さを感じることができました。私は記念館を見学してみて、核兵器は絶対にあってはならないものだと思います。

私が広島平和記念資料館を見学して一番心に残ったことは、その当時の人々の状態です。全身にやけどを負った人、皮膚がただれてしまった人、身に着けていた衣服がボロボロになってしまった人、食べ物がなく餓死してしまった人、親に会うこともできずになくなってしまった人など、たくさんの方がいました。

資料館では一人のボランティアのおじいさんが折鶴を交えたおもちゃを配りながら、当時の子どもたちの様子を真剣に話してくださいました。そのおもちゃには、「千の風に乗って。愛する世界に。」という文字が刻まれています。これだけでも、平和への強い願いがひしひしと伝わってきます。おじいさんの話には、とても説得力があり、戦争は二度としてはいけない、これからも平和とは何か自分自身でしっかりと考えていかなければならないと改めて思いました。

私は、当時さまよっている子どもの再現模型を見た時には、驚きました。私と同じくらいの歳の子や私よりも小さい子が、皮膚がただれ、衣服はボロボロの状態でさまよっていたからです。どれほど悲惨な状態であったかが伝わってきました。

私は、広島平和記念資料館を見学して、教科書だけでは、きっと学ぶことの出来なかった当時の人々の状態や、命のありがたさについて学ぶことができました。この学んだことを、たくさんの人に伝えていけたらいいなと思います。

この弁当箱は、折免おりめんしげる滋くんのものです。彼は、爆心地から約600メートルの所にある建物疎開作業現場で被爆しました。

母のシゲコさんは、破壊した町を探しましたがなかなか見つからず知人からの情報で8月9日の早朝、滋くんの遺体と、遺体に抱えられた真っ黒に焼けこげたお弁当箱を発見しました。

シゲコさんは、弁当を食べることなく死んでしまった滋くんが不憫でなりませんでした。

この写真は、たった一度の爆弾で、切れたり焼けこげた、衣料品の数々です。中には小さい子供が着ていたワンピース、それにぐちゃぐちゃになった軍事服、大きな穴の開いたズボン、まっくろになった、下駄などたくさんありました。

この資料館の見学で、戦争の恐ろしさと驚き悲しみが伝わってきました。

4 見学から学んだこと。

僕は広島記念資料館を見学したときは、自分が戦争のことに対してほとんどよく知らなかったということを実感させられました。そして資料館で多くのことを学びました。

僕はそもそもなぜ原爆を投下したのが広島だったのか疑問に思いました。資料館を見学してわかったことは、アメリカは原爆の威力を正確に測定できるよう広い市街地を持つ都市の中から選んで、原爆の投下まで街並みを残すため、投下の約3か月前に目標都市への空襲を禁止しました。7月25日には目標都市をいくつかにしぼり、いずれかの都市に投下命令を出したそうです。広島に決めたのは8月2日、8月6日には広島が晴れていたため投下されたそうです。

広島に原爆が投下されてから69年がたちました。広島が復興していたことにすごく驚きました。資料館を見学して戦争の悲惨さを学ぶことができました。

以上